

CN：歴史的建造物を使い続けるための

そもそも環境性能良い建物に建替えることは善なのか？
基本的には使い続けることがCNに資するのではないか？

例)

- ・ RC造の躯体を8割再利用すると、CO2排出量は7割減
- ・ 木造の全面改修の場合、CO2排出量は5割弱削減
- * 改修により環境性能を新築同等にまで引き上げた場合



建替えざるを得ない場合は、高次の環境性能を目指す
…機能主義的ドグマと経済資本主義の共犯関係による
建て替え正当化は断固拒否

特に近現代建築は、仮に歴史的建造物としての評価が
あったとしても、その存続のためには、現役の建築とし
て使い続けていくことが要請される

環境性能が低いままだと、運用時に多量のCO2を排出す
ることになる

使い続けるためには、環境性能のUP（エコ改修）が必要

歴史的建造物固有の問題

改修に際して、オーセンティシティ、インテグリティを
どう守るか

「保存・再生」と「リノベーション」の違い

- 保存・再生…建築の価値を守る
「オーセンティシティ」 authenticity（真実性）
「インテグリティ」 integrity（完全性）

- リノベーション…不動産としての価値を活かす

BUT

歴史的建造物と言えども、一定水準の性能を持った、現
役の建築であることが要請される状況



現行法規や要求性能（機能性、安全性、環境性能等）へ
の対応手法

- ・ リノベーション等における既存建築の再生手法に学ぶ
- ・ 伝統工法の持つ知恵に学ぶ…ex) 気候風土適応住宅
- ・ 新築コンシャスな法体系、評価手法に対して新たな手
法・枠組みを構想する



建築において難しい全体を解くことを楽しむ！



社会に対して粘り強く働きかける！